

平成 30 年度  
第 3 回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会

平成 31 年 2 月 5 日(火)  
本庁舎事務棟 7 階 702 会議室

八王子市環境保全課

平成 30 年度 第 3 回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会出席名簿

出席者	座 長	沼 田 真 也
	委 員	町 野 いこひ
		田 所 喬
		城 所 幸 子
		小 野 弘 人
		竹 下 博 士
		藤 原 啓 二
		竹 内 高 広
		志 村 亮 介

欠席者	阿 部 伸 太
	市 古 太 郎
	大久保 徹
	米 田 剛 行

事務局職員	環境保全課長	青 木 一 浩
	環境保全課	佐 藤 高 広
		福 士 大 介
		吉 澤 遼
	公園課	中 山 あずさ
		島 村 俊 一
		福 田 直 樹
	アジア航測(株)	深 見 幹 朗
		藤 原 真 太 郎

公開・非公開の別	公 開
----------	-----

# 平成 30 年度第 3 回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会 次第

日 時 平成 3 1 年 2 月 5 日 (火)  
午前 9 時 3 0 分 ~ 1 1 時 3 0 分  
場 所 7 0 2 会議室

## 1 開 会

## 2 議 題

### (1) 八王子市みどりの基本計画の基本方針及び施策について

- ア. 基本方針等の変更について
- イ. 公園施策の方向性について
- ウ. 緑化・緑地保全施策の方向性について

### (2) 地域別方針について

### (3) その他

#### 【資料】

- ・基本方針等の変更について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
- ・都市公園等の整備及び管理の方針について・・・・・・・・・・資料 2
- ・緑化・緑地保全施策の方向性について・・・・・・・・・・資料 3
- ・地域別方針について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 4
- ・緑被率について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 5

## 1. 開会

**事務局** 計画見直しの基本的な方針として量から質への転換を掲げ、第 2 回策定検討懇談会では、基本となるみどりの機能や基本理念、将来像などについて議論をした。先日、第 2 回策定検討懇談会の意見を踏まえた上で、第 3 回庁内検討会を開催し、基本的な事項については一定程度まとまってきたと考えている。

今回は公園や緑地の施策の方向性が大きなテーマとなるので、ご議論をお願いしたい。

## 2. 参加者紹介

- ・第 1 回、第 2 回懇談会欠席者による自己紹介。

## 3. 議題

### (1)八王子市みどりの基本計画の基本方針等について

**事務局** 基本方針等の変更について説明

#### ■質疑応答

**座長** 今の説明について、質問、提案はあるか。

**委員** 生物多様性の保全やみどりのネットワークの形成という表現があるが、みどりのネットワークは主に「量」を論じる項目であり、生物多様性は主に「質」を論じる項目と考える。1 つの方針の中に質と量に関する内容が併記されていることに違和感がある。

**事務局** 新たな基本方針は、質・量・協働の 3 つを柱として整理している。生物多様性は環境保全の視点で表現しており、表現については工夫する。

**座長** 生物多様性は自然環境としての質であり、みどりのネットワークは質の向上を実現するための手段・方法論と考える。分かりやすさのためにもう少し表現を整理するとよい。また、みどりのネットワークという表現は、市内の緑をつなげることによって生物生息地としての価値の向上を意図して用いた表現であればそのように表現した方がよい。みどりのネットワークの実現が現実的かどうかも含めて、記載の再検討が必要。

**座長** まちづくりの視点は重要で、是非実現させたいが、どのようなまちづくりをしたいのか、具体的な内容が明確ではない。みどりをどのように使って、何を目指していくのかを示すべき。

**事務局** 現計画は緑被率など量の視点はあったが、みどりの機能については十分に整理されていなかった。今回の見直しでは、みどりの機能を意識して、公園などに機能を付加していく必要があると考えている。加えてまちの緑化は、それによりまちの質を向上させるという視点で整理している。

**座長** 質を上げるということは、みどりをを使ってブランディングなども含まれるとの理解でよいか。

**事務局** 目指すところはそこになると考えている。

**座長** どこの自治体でも人口減少や少子高齢化は課題となっている。受け身で考えていくのか、あるいはブランディング等によって新しい住民を呼び寄せることもできる。

- 事務局** 本市の人口は、当面 10 年間は大きく減少しないと考えている。新たなみどりの基本計画は今後 10 年間で計画期間として策定するため大きく取り上げてはいないが、それ以降は確実に人口が減少するため、重要な課題と認識している。立地適正化計画との兼ね合いの中で検討していくことになると考えている。
- 座長** 他自治体では、人口減少を食い止めるために、みどりや街路樹による都市のブランディングを始めている事例がある。「まちづくり」はキーワードとして使いやすいものであるが、緑を用いて具体的に何ができるのかを考え、計画と通して市民が幸せになれるとよい。
- 座長** キーワードだけでなく、具体的にできることに関する意見はないか。これまでに行われてきた「守るだけ」の取り組みは、市民から距離があったが、今後は身近な緑として活用していくこともよい考えである。
- 委員** 質の向上は図るべきである。緑被率などの数値目標だけではなく、市民が緑を使いたくなる様にするのが重要。例えば、ニューヨークのブライアントパークはもともと犯罪の多い公園だったが、公園のブランディングで綺麗に整備した結果、人が集まるようになり、寄附が沢山集まるようになった。緑を増やすだけでなく、そこを活用して民間が利用したいと思われる仕掛けにより、行政と民間が Win-Win な関係になる利用方法を検討してもよい。公園の縛りを緩和して民間の資金を流入させる仕組みがあってもよい。例えば、テーマパークのように各アトラクションにスポンサーがつくイメージ。民間の資金を活用して、みどりの機能を高めていくことを検討するとよい。
- 座長** 人々が利用したくなる場所にするのは、まちづくりの中でも大切である。
- 委員** 人が使いたくなるようにすることこそが、質の向上である。質としてのコンテンツを多様性を持って提示してもらえると、民間や地域住民が使いたくなるようになるのでは。
- 委員** 公園には遊具だけでなく、自分たちの地域について知れたり、感じられる施設があってもよい。
- 委員** 生物多様性の表現については同じく違和感を覚えた。  
一方、基本方針の柱が 4 本から 3 本になったことで、まとまりができてよい。基本方針には難しい言葉をいれなくて、シンプルな形でまとめてはどうか。
- 委員** 防災の観点について何か考えはあるか。
- 事務局** 防災機能は重視している。特に中央地域においては、近年の人口増に対して公園の数が不足している。震災に備えるためのオープンスペースを確保することが強靱なまちづくりの観点でも重要であると考えている。
- 委員** JA では生産緑地などの活用で防災井戸の事業も行っている。これらについても記載があるとよい。また JA としても市と一体となって防災に力を入れているとのアピールとなる。生産緑地の活用をもう少し具体的に記載して頂きたい。
- 座長** 緑地やオープンスペースの機能としての防災については、基本方針(1)で述べるとよい。基本方針の内容については違和感がないので、機能に関する内容を具体的に記載することでわかりやすくなると感じる。

## 事務局 公園施策の方向性について説明

### ■質疑応答

**座長** 今の説明について、意見、提案はあるか。

**委員** 自身が指定管理者であることから公園行政を取り巻く状況はよく理解する。

P.4に「量」から「量・質・協働」へと記載されているが、現計画の中にも質と協働に関する考え方はあるので、「これまで以上に質と協働をしっかりとやっていく」というニュアンスで表現したほうが、みどりに関わる人たちのモチベーション的にもよいのではないか。

P.7に記載の「温もり」という考え方は大切である。例として挙げられている「樹木伐採ガイドライン」の「伐採」という表現は「育成」等に変えるとよい。伐採という言葉を使うと最初から伐採ありきと捉えられてしまう。育成ガイドラインの中の一つの選択肢として伐採もある表現の方が、地域の方の抵抗も無くなるのではないか。樹木を活かした維持管理を行うことが伝わる表現がよい。

P.10で市民協働の事例として明神町の公園を示しているが、具体的に想定する「市民」が明確ではない。地元の企業や団体など、多様な主体を含めて地域協働が行えるとよい。町会や自治会の参加者が減っている中、協働の枠組みとして、NPOや小学校、学童とも連携し、問題や課題を有する人たちを集めて継続的に続けられるシステムをつくれるとよい。

P.11の民間活用はこれから必要になってくる。また、指定管理者の有効活用も重要である。地域や団体によって得意、不得意な活動があるため、偏りがないようにやっていくことと地域に応じた指定管理者の活用方法を考えていくことが必要である。

**座長** 表現については、市民に誤解が生じない内容で検討していただきたい。

協働については、誰がどのように参加するかは大切であるため、誰を想定しているかを明記した方がよい。

指定管理者をどうすれば有効活用できるか、改めて考える必要がある。現状、何年かで管理者が変わる制度が効率的なのか、公園はどのくらいの期間で管理することが適切かも含めて検討していくとよい。

**委員** 公園関係の予算が決まっている中、公園整備の優先順位はどのように決まるのか。

**事務局** 公園再整備は老朽化している施設が優先となる。市民からの要望は多く、長寿命化計画とも照らし合わせ、その中で危険と判断した遊具については対応していく。ただし、今後は画一的な更新だけではなく、更新後の利用状況も踏まえて工夫を図っていききたい。また遊具は撤去となっても、代わりに地域コミュニティで利用できるような整備をするなども検討している。

**委員** 新しいものを作りたいという市民の要望もあると思うが、お金がかかることは理解する。

**事務局** 新規設置についても市民からの要望を踏まえて、まちづくりの視点、防災の視点、子どもの健全育成や子育ての視点など複数の視点で検討していくことになると考えている。

**委員** アドプトで緑地保全の活動を行っているため指定管理者とは密接な関係がある。指定管理者の変更によってアドプト活動がこれまで円滑に実施できた環境であったのに、新たな制約が生まれてしまうこともある。そのため指定管理者を変更しても、地域のアドプト団体と新たな指定管理者との協力関係を継続的に築けることが課題だと思う。民間活力の活用は、これ

からより大切になってくる。陵南公園は民間の手腕が発揮されており、イベントは活況である。一方、普段は高齢者が集まっているだけ。もっと高齢者が楽しめるようなコミュニティの場になってもよいと思う。指定管理者が関わる活動は親子対象になりがちであるため、幅広い世代が利用できることよい。

みなみ野には立派な公園がある。雑木林と遊具で色々な世代が楽しめる。一方で、街中の公園は遊具が整備されずずっと放置されており、周辺住民は高齢者ばかりで公園が使われていない。住民のニーズをもう少し調べて、ニーズにあった公園にしていく必要がある。

**座長** 住民も変化していくため、ニーズに合わせて変えていくのは難しいかもしれないが、活用方法を考えることはできる。

**委員** 新しい遊具の整備にはお金が必要。行政は資金が潤沢ではないため、民間を活用してもらいたい。陵南公園は土日が盛況で、平日が少ない状況であるが、普段こない人を呼び込むという入り口をつくる意味ではいいのではないか。また平日も継続して利用できる施設があると民間の資金源になる。

指定管理者も価格競争で疲弊している。「質」を重視するのであればその対価となるものが必要で、例えば企画競争入札などで指定管理者を適切に選定する必要がある。地元企業を巻き込んだスポンサーシップも一案である。例えば、地元の中小企業に協議会に入ってもらい、企業がコミュニティ形成の一部となり、助けあう仕組みがあってもよい。行政のお金に頼るのではなく、民間に公園管理に関する権限を委譲して、その中でお金の調達をしてもらえりような流れをつくるとよい。

**座長** 多くの自治体にある少子高齢化や税収減からくるあきらめムードを打破したい。お金はないが知恵や人材はある。予算がないのであれば管理者に裁量をもたせるなど、少しでも前向きな方針を出していきたい。

お金がないのではなく、探していないとも言える。色々な人が公園を利用したいと考えているため、周りの人々を活用しながら少しでも市が良くなる仕組みをつくりたい。

**座長** 指標に「一人当たり都市公園面積」が掲げられているが、人口が減少することで自動的に達成してしまうものはあまり良くないのではと考える。

P.9で「人を惹きつける」とあるが、説明にあったホームページの改修など具体的な工夫が必要である。

**委員** 公園は子どもが使うため、学校や家庭を通して公園とのつながりをつくるのが大切である。公園を子どもたち自身がつくりあげたり、綺麗にしたという体験が大切。公園整備についても学校で何ができるのかを考え、子どもたちが主体的に学び、関わり、作り上げ、子どもたちが持続的に維持していく仕組みになるとよい。ただし今は学校に余裕がない。その役割は一時的に家庭や地域が担い、最終的には学校が担うのがよいのではないかと感じる。

**事務局** 緑化・緑地保全施策の方向性及び自然環境評価の活用方法について説明

## ■質疑応答

**座長** 今の説明について、意見、提案はあるか。

- 委員** 八王子には高尾や陣馬などの山地があるが、これら山地はみどりの基本計画の対象としていないのか。
- 事務局** 計画の対象として考えている。市としても高尾や陣馬は保全だけでなく観光などの視点でも重要と考えている。記載方法については今後検討していく。
- 座長** 現在の記載は市街地に近いところに注力している印象を受けている。市全体の方向性を検討してほしい。  
緑地保全の施策はボランティア頼みになっている印象を受けるが、どのようなアイデアがあるか。
- 委員** 里山サポーター養成講座を記載してはどうか。ただし、当該講座は参加者が減っており先行きが不透明である。参加者のほとんどが60歳以上であり、講座を修了しても何も活動しない人がいる。制度そのものは悪くないが、市民の一人ひとりの意識が低く、無関心だと感じる。無関心な人たちに関心を持ってもらうためにはどうしたらよいかと思う。
- 座長** 若い人も活動が大切なことは理解しているが、作業が楽しくないのではないか。伝える側は自分たちが何を楽しんで活動しているのかを伝える努力をしてはどうか。講座でも技術に加えて活動の楽しみやメリットが伝わるようにするとよい。特に若い人は忙しく、また里山などで遊んだ経験も無いためメリットを受けてこなかった。そこで作業だけやれというのは難しい。活動場所がその人にとって良い場所であるといったメリットを持たせることが必要。事業が有効に活用されていないことには原因があるので、原因を明らかにして対策していく必要がある。
- 委員** 講座にも出口戦略がないと繋がっていかない。活動する場をマッチングしていくことが必要。小学校の活動に講座の修了者を派遣するなど、出口を作らないともったいない。

## (2)地域別方針について

**事務局** 地域別方針について説明。

### ■質疑応答

**座長** 今の説明について、意見・提案はあるか。  
(意見等なし)

## (3)その他

**事務局** 緑被率調査の結果について報告。

**座長** 今の説明について、意見・提案はあるか。  
(意見等なし)

**事務局** 本日述べられなかった意見や質問については、メール又は意見記入シートに記載をお願いしたい。次回の懇談会は5月を予定している。日程はメールで事前に調整させていただく。

以上  
午前11時30分 閉会